

わたしが作った花押

—小学生の古文書を利用した学習—

千葉県船橋市立坪井小学校 鈴木 正人

1. 実施学年及び教科・領域

小学校第4学年 図画工作

2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

(1) 主題名

世界に一つだけの花押～自分のサインを作ってみよう～

(2) ねらい

①学習指導要領との関連

図工編第3学年及び第4学年「2 内容」「A 表現」のうち

- | |
|--|
| <p>(1) 材料や場所などを基に造形遊びをする活動を通して、次の事項を指導する。</p> <p>イ 新しい形をつくとともに、その形から発想したりみんなで話し合ったりしながらつくること。</p> <p>(2) 感じたこと、想像したこと、見たことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する。</p> <p>ア 感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けて表すこと。</p> |
|--|

同「B 鑑賞」のうち

- | |
|---|
| <p>(1) 身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を指導する。</p> <p>ア 自分たちの作品や身近な美術作品や製作の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取ること。</p> |
|---|

②単元の目標

前回の実践で、小学生に対して古文書を用いた学習は、子ども達の歴史への興味や関心を増大させたという成果があった。しかし、一方で文字を読み取り、その古文書から情報を得るのは、やはり難しいことを痛感した。

2013年度の歴博での企画展示「中世の古文書—機能と形—」が開催された。そこで、子ども向けに用意されていたワークシートが非常によくできており、これを教室で活用できないだろうか考えた。

「古文書に親しむ」という観点から言えば、文字情報だけではなく、花押や料紙などにも重要なことである。花押をサインとして説明すれば、子ども達も親近感を感じてくれるだろうと考え、授業実践を行った。

- ・花押について興味を持ち、楽しみながら作ろうとする。

(造形への関心・意欲・態度)

- ・自分のイメージをもとに、花押に使う文字を選んだり考えたりする。
(発想や構想の能力)
- ・文字を花押にするときに、組み合わせ方や崩し方、つなぎ方を工夫する。
(創造的な技能)
- ・自分や友達の子の作品の良さを感じ取り、共感する。
(鑑賞の能力)

(3) 博物館との関連

①使用した資料

歴博ホームページの「Web ギャラリー」から入る「中世の古文書」の「武家の文書ー鎌倉から織豊までー〔電子企画展版〕」のうち、以下の資料。

- ・鎌倉～南北朝：将軍藤原頼経袖判下文 1231年(寛喜3) 『田代文書』
足利尊氏袖判下文 1351年(観応2) 『越前島津家文書』
- ・室町～戦国：室町幕府奉行人連署奉書〔竪紙〕 1522年(大永2)
羽柴秀吉書状 1579年(天正7) 『石見亀井家文書』

②使用したワークシート

企画展示「中世の古文書ー機能と形ー」(2013年10月8日～12月1日)で使用された以下のワークシート。

- ・「源頼朝の花押(サイン)」、「足利尊氏の花押(サイン)」、「織田信長の花押(サイン)」、「羽柴(豊臣)秀吉の花押(サイン)」
- ・「自分の花押(サイン)を作ってみよう」
- ・「掲示用紙」

3. 指導計画(2時間扱い、発展は含まず)

過程	時間(分)	○学習活動 ●学習内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
導入	5	○「これは一体何だろう？」 ～花押を知ろう！～ ●実際の古文書を提示し、花押について親しみを持つ。	□古文書の内容には触れないが、何年ぐらい前のものかななどの情報を提示する。
展開1	15	○「この花押はどうやって作ったの？」 ～花押のパターンを知ろう！～ ●源頼朝、足利尊氏、織田信長、羽柴(豊臣)秀吉の花押を提示し、その作り方を知り、実際になぞってかく。	□子ども達に配布する資料を黒板掲示用に拡大したのを用い、筆順などを子ども達が見やすくなるようにする。
展開2	25	○「自分の花押を作ってみよう！」 ～世界に一つだけの花押～	□教師自身の花押を提示して、子ども達にイメージをより持たせるようにする。

	7	<p>●展開1で触れた人物の花押を参考に、自分の花押を考えて、練習をする。</p> <p>●練習をもとに、清書をする。</p>	<p>□どれにするか決めかねていたり、形をどうするか迷っている子に対して、個別支援を行う。</p> <p>■花押に、興味を持っている。 <観察：関・意・態></p> <p>■自分のイメージをもとに、花押に使う文字を選んだり考えたりしている。 <観察及びワークシート、発・構></p> <p>■文字を花押にするときに、組み合わせ方や崩し方、つなぎ方を工夫している。 <ワークシート：技></p>
展開3	30	<p>○「友達の花押を見てみよう！」</p> <p>●友達の花押の良い所や工夫したところを付箋にメモをして、作品に貼り付ける。</p>	<p>□より多くの友達の作品を見るように指示をする。</p> <p>□単に「良かった」や「上手だった」という言葉ではなく、具体的にどこが良かったか、気に入ったのかを記載するように、支援する。</p> <p>■友達の作品の良さを感じ取り、共感している。 <付箋への言語表記：鑑></p>
まとめ	8	<p>○「学習をふりかえろう！」</p> <p>●本学習の振り返りをする。</p>	<p>■花押作りに対して、興味・関心を持っている。 <ワークシート：関・意・態></p>
発 展	時数外	<p>○「花押を使ってみよう！」</p> <p>●花押を学校生活の中で使ってみる。</p>	

※評価の観点は、単元の目標詳細あり

4. 実践の概要

(1) 2013年12月13日(金) 第5校時

①導入

○「これは一体何だろう？」

- ・インターネットを用いて、歴博ホームページから「将軍藤原頼経袖判下文」、「足利尊氏袖判下文」、「室町幕府奉行人連署奉書」、「羽柴秀吉書状」などを、プロジェクターを用いて掲示した。
- ・それぞれに共通してあったものとして、もう一度花押に着目させ、花押についてどういったものなのかを説明した。

②展開 1

○「この花押はどうやって作ったの？」

- ・導入で花押に興味や関心を抱かせた後で、歴博のワークシート「源頼朝の花押（サイン）」、「足利尊氏の花押（サイン）」、「織田信長の花押（サイン）」、「羽柴（豊臣）秀吉の花押（サイン）」を印刷して配布した。



教師の説明

なったのかなど説明した。なお、説明は歴博のワークシートを参照に、以下のように行った。

頼朝：「頼」の偏「束」と「朝」の旁「月」を合体

尊氏：尊氏の前の名前である「高氏」の「高」

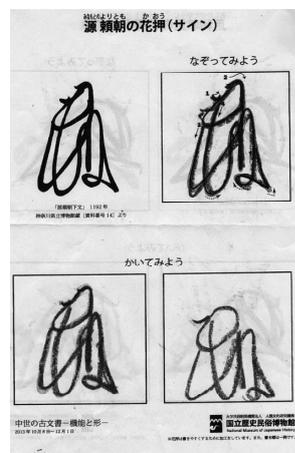
信長：信長が理想とする麒麟の「麟」

秀吉：「秀」の音読み「シュウ」の最初の文字「シ」と、「吉」の音読み「キツ」の最後の字「ツ」を合わせて、「シツ」の音読みになる「悉」

- ・教師の説明に続けて、油性マジックペンやクレヨンなどで、なぞり書きをさせた。



花押をなぞり書きする子ども



花押のワークシート

③展開 2

○「自分の花押を作ってみよう！」

- ・自分の花押を考えさせた。まず、先に見た歴史上の自分の花押を参考にしながら、自分はどのパターンで作りたいか（例：頼朝パターン）、つぎに文字をどうつなげるかを考えさせた。
- ・そして、この際なかなか自分の花押が決まらない子には、適宜アドバイスをした。特に、児童自身で考えるのが難しかったのは、名前がひらがなの子であった。この場合は、信長パターンか、秀吉パターンにした方がわかりやすいのではないかと、助言した。
- ・できた児童から、ワークシート「自分の花押（サイン）を作ってみよう」に練習させた。

(2) 2013年12月17日(火) 第3校時

①展開2 (承前)

- ・授業の最初に、練習をもとにしてワークシート「掲示用紙」を配布して、油性マジックペンで清書させた。

②展開3

○「友達の花押を見てみよう！」

- ・学習班の形(4人グループ)にさせ、机の上に清書した自分の提示用紙を置かせた。
- ・付箋を配布し、感想を書かせて友達の提示用紙に貼らせた。その際に、①同じグループの人に、②クラスみんなに、と順番を決めることで、感想が一枚も貼られていない状態を避けるように配慮した。



感想を貼る

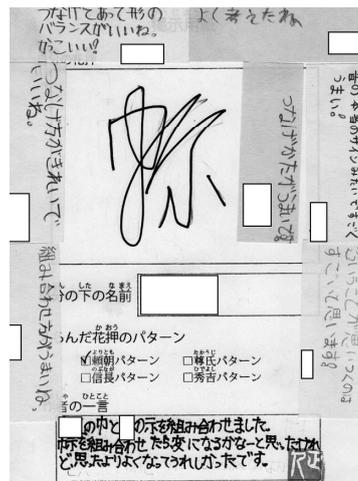
☆花押パターンの割合

頼朝パターン：11人、尊氏パターン：18人、信長パターン：0人

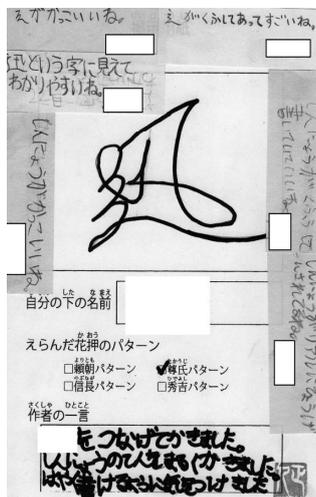
秀吉パターン：2人、その他：1人(名前をすべてひらがなにしてみつけた。)



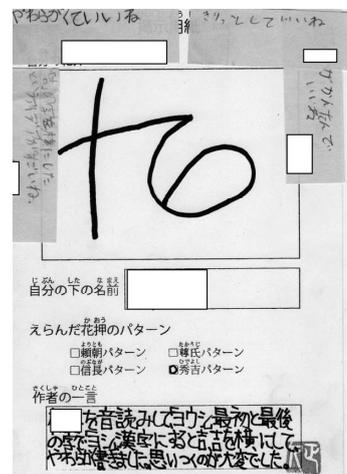
クラス全体の様子



子どもの花押(頼朝パターン)



子どもの花押(尊氏パターン)



子どもの花押(秀吉パターン)

③まとめ

○「学習を振り返ろう！」

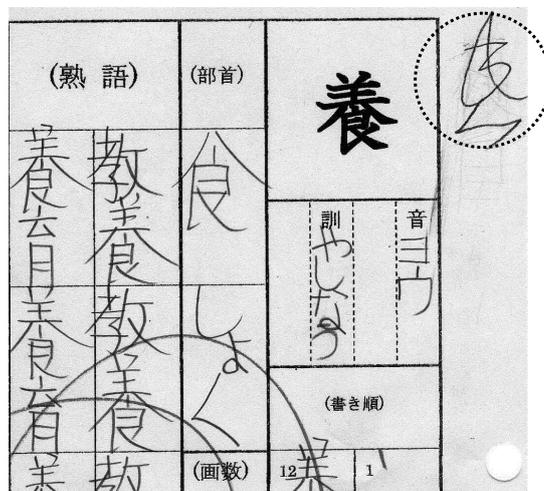
- ・本学習の感想を書かせることで、自分の学んだことを確認させた。

(3) 発展について

- ・授業後、宿題のプリントなどクラス内だけの提出物について、名前ではなく花押を書いて提出してもよいことにした。
- ・クラス全員の花押を掲示して、誰がどの花押を使うかわかるようにした。

(4) 児童の感想（原文そのまま）

- ・かおうで書くとはやく書けるので良かったです。自分だけの花押があるのでおもしろいです。とてもむずかしそうでしたが思ったほどむずかしくはなかったです。もっとかおうを使ってみたいです。
- ・とても大変だったけど上手に書けたのでとてもうれしかったです。他の人もうまい人がたくさんいたのでびっくりしました。付せんをはってくれた人がいたのでうれしかったです。
- ・花おうを書くには、むずかしかったけど、やってみたら楽しかったです。昔の人たちは手紙にみんな自分の花押を書くんだとわかったので勉強になったなと思いました。
- ・初めてできた花押をいろいろな所に書きたいと思いました。
- ・花押は、考えてもすぐには思いつきませんでした。先生がアドバイスをくれて良かったです。シンプルな花おうができてうれしかったです。
- ・4つのパターンから選んで、自由にくっつけたりつなげたりして、楽しかったです。かおうを考えるのはけっこうむずかしかったですが、考えるのも楽しかったです。いろいろなことに、使えるのですごくうれしいです。かおうができた時は、すごくうれしかったです。そのうれしさで、家族にもじまんしてしまいました。作ってよかったですと思いました。
- ・わたしは歴史にきょうみがあるので、信長などの花おうの練習ができてよかったです。
- ・かおうがあるととても便利で、5・6年でもおぼえていられるように、色々な所に書きたいです。
- ・いろいろな昔の人のかおうがしれてよかった。ほかの人のかおうもつなげたりくずしたりするのがじょうずだった。
- ・花おうを自分で作り始めたときにどんなやりかたや形にしようかまよったけれど、それがきまったり書けたりするととてもうれしかったです。



宿題のプリント（右上に花押）

- ・花押を書くのがむずかしかったけどやってみたらすごく楽しかったです。昔の人たちは手紙とかに花押を書いていたのをきいてすごく勉強になりました。よく昔の人たちはだれの花押かがすぐわかってすごいと思いました。
- ・昔の人の花押にも、ちゃんと由来があり、感心しました。自分の花押を作るのが面白かった。漢字プリントに、いちいち名前を書くより、花押を書くほうがすごく早いので、これからもよく使っていこうと思った。
- ・自分のサインを考えるなんて思ってもいませんでした。サインを使えると聞いて、びっくりしました。
- ・花おうは考えるのがとてもむずかしかったです。でも考えた花おうはシンプルで書きやすくてとてもよかったです。

5. 成果と課題

(1) 成果

- ・花押はサインのことだと説明をしたので、自分が有名人になった気になって、積極的に取り組んでいた。
- ・花押を考えることについて、何でもよいとするとどうしてよいかわからなくなる子どもがいる可能性もあったので、4つのパターンを提示しその中から決めるというのがよかった。
- ・感想を付箋にして貼ることにより、友達からの自分への評価を直接見ることができて、友達同士の繋がりが強まった。
- ・花押をプリントなどの名前欄に、使ってよいとしたところ、大変喜んでいて、一生懸命考えた花押を、実際に使用できる機会を与えたことは、効果的であった。
- ・全員の花押を掲示したため、プリント等を子ども達が友達に返却するときに、「これは〇〇君の」や「この花押は〇〇さんのだな」と、友達の花押についてより興味を持つこととなった。
- ・花押を通じて、もともと歴史に興味があった子は、さらに関心を持つことにつながった。
- ・今回の実践は4年生であったが、内容は難しいものではないので、低学年から高学年まで幅広く実践が可能であると考えられる。
- ・歴博のホームページとワークシートを活用したので、遠隔地の学校など歴博に行くことができない学校でも、実践が可能である。

(2) 課題

- ・花押を考える時間が不足してしまって、一部の子には宿題として課すことになってしまった。授業時間中に、しっかり時間を取る必要があった。
- ・古文書を提示し実際の花押を見ているので、花押を清書するときも油性マジックペンではなくて、雰囲気をより近くするために小筆を使うとさらに効果があがったかもしれない。一方で、筆を用いると書きにくくなることも考えられる。

6. わたしの考える歴博活用案

小学校全学年	図画工作	自分の花押を作ってみよう	3時間
--------	------	--------------	-----

(1) 学習のねらいと博物館の利用について

①学習のねらい

自分の名前の文字を使い、既存の花押のパターンから自分の表したいものを選び、繋げたり崩したりして、自分の花押を作ること。

②本実践との変更点

成果と課題で触れたように、対象学年を全学年にして、時数を1時間増加した。なお、対象学年については、全ての学年での実践を考えた。

(2) 使用資料

①使用する資料

歴博ホームページの「Web ギャラリー」から入る「中世の古文書」の「武家の文書－鎌倉から織豊まで－〔電子企画展版〕」のうち、以下の資料。

- ・鎌倉～南北朝：将軍藤原頼経袖判下文 1231年（寛喜3） 『田代文書』
足利尊氏袖判下文 1351年（観応2） 『越前島津家文書』
- ・室町～戦国：室町幕府奉行人連署奉書〔堅紙〕 1522年（大永2）
羽柴秀吉書状 1579年（天正7） 『石見亀井家文書』

②使用するワークシート

企画展示「中世の古文書－機能と形－」（2013年10月8日～12月1日）で使用された以下のワークシート。

- ・「源頼朝の花押（サイン）」、「足利尊氏の花押（サイン）」、「織田信長の花押（サイン）」、「羽柴（豊臣）秀吉の花押（サイン）」
- ・「自分の花押（サイン）を作ってみよう」
- ・「掲示用紙」

(3) 展開

過程	時間	○学習活動 ●学習内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
導入	1	○「これは一体何だろう？」 ～花押を知ろう！～ ●実際の古文書を提示し、花押について親しみを持つ。	□学年によって、古文書の説明を変える。 低・中学年 …昔の人が書いた手紙。 高学年 …差出人が宛先人にある意志も持って出した手紙。 □特に、6年生は社会科で歴史学習を行っているので、古文書が出された時代や発給・宛所についても簡単な説明を加える。

展開 1		<p>○「この花押はどうやって作ったの？」 ～花押のパターンを知ろう！～</p> <p>●源頼朝、足利尊氏、織田信長、羽柴（豊臣）秀吉の花押を提示し、その作り方を知り、実際になぞってかく。</p>	<p>□子ども達に配布する資料を黒板掲示用に拡大したものを扱い、筆順などを子ども達が見やすくなるようにする。</p>
展開 2	1	<p>○「自分の花押を作ってみよう！」 ～世界に一つだけの花押～</p> <p>●導入で触れた人物の花押を参考に、自分の花押を考えて、練習をし、小筆で清書する。</p>	<p>□教師自身の花押を提示して、子ども達にイメージをより持たせるようにする。</p> <p>□どれにするか決めかねていたり、形をどうするか迷っている子に対して、個別支援を行う。</p> <p>□低学年は、毛筆が授業で行われておらず、扱いも難しいので、油性ペン等で書かせる。</p> <p>■花押について、興味・関心を持っている。 ＜観察：関・意・態＞</p> <p>■自分のイメージをもとに、花押に使う文字を選んだり考えたりしている。 ＜観察及びワークシート：発・構＞</p> <p>■文字を花押にするときに、組み合わせ方や崩し方、つなぎ方を工夫している。 ＜ワークシート：技＞</p>
展開 3	1	<p>○「友達の花押を見てみよう！」</p> <p>●友達の花押の良い所や工夫したところワークシートに書く。さらに、簡潔にその内容をまとめたものを付箋にメモをして、友達の花押の作品に貼り付ける。</p>	<p>□より多くの友達の花押の作品を見るように指示をする。</p> <p>■友達の花押の良さを感じ取り、共感している。 ＜ワークシート・付箋：鑑＞</p>
まとめ		<p>○「学習をふりかえろう！」</p> <p>●本学習の振り返りをする。</p>	<p>■花押作りに対して、興味・関心を持っている。 ＜ワークシート：関・意・態＞</p>

発 展	時数外	○「花押を使ってみよう！」 ●花押を学校生活の中で使ってみる。	
-----	-----	------------------------------------	--

(付記)

本実践で使用した、企画展示「中世の古文書—機能と形—」(2013年10月8日～12月1日)のワークシート類は、歴博こども向けホームページ「こどもれきはく」に掲載予定である。